

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3970800086		
法人名	社会福祉法人 合歓木の会		
事業所名	グループホーム 百日紅の家		
所在地	高知県土佐清水市グリーンハイツ20-21		
自己評価作成日	令和2年1月10日	評価結果 市町村受理日	令和2年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

百日紅の家は、事業所ではなく大家族という方針で、利用者と職員が家族のように協力し、母体法人運営の幼稚園の園児とも日常的に触れ合い、昔ながらの賑やかな生活をしています。

利用者一人ひとりの要望に合わせて墓参り、美容室、自宅の掃除、買い物、病院の受診などに日常的に出かけ、普通の暮らしを目指しています。

地域にもボランティアや研修の場として開放したり、事業所では年に一度の盛大な「秋祭り」や「炊き出し訓練」を開催し、認知症高齢者への理解も深まっています。地域の方々もお誘いし、勉強会なども行って、誰でも出入りできる開かれた事業所づくりをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhou_detail_022_kihon=true&JgyosyoCd=3970800086-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	令和2年2月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市街地の高台にある母体法人運営の3事業所の一つで、広い庭は利用者の散歩コースとなっている。毎年行われる秋祭りや炊き出し訓練には地元からの参加者が多く、地域の恒例行事として定着しており、母体法人全体が地域で中心的な役割を担うようになってきている。近隣の母体法人運営の幼稚園児との交流も深まっている。

職員は、「施設ではなく家族である」という理念のもと、家族的な関わりの中で、利用者の思いを一番に受け止めるケアに取り組んでいる。統括管理者は毎日来所し、職員とのコミュニケーションをとって、職員からも意見を出し、何でも相談できる関係が築かれている。

職員は恵まれた職場環境にあると感じており、利用者が自信を持ってくれたときや、喜んでくれたときにやりがいを感じ、利用者に寄り添う時間を大切にして、日頃のケアに取り組んでいる。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を休憩室に貼り、全員が確認し合っている。職員、管理者は、ケアや利用者のお話になったときには、理念を確認しながら、ケアの原点は理念にあることを念頭に置いている。	「施設ではなく家である」「地域住民との交流」「自尊心を大切にする」などの理念のもと、一人ひとりの思いを大切にケアに取り組んでいる。ケアについて申し送りやケア会で随時振り返り、意識づけをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の総会や会合、地区一斉清掃に参加している。近隣住民が畑で作ったじゃがいも、野菜、みかん等を持ってきてくれる。近隣の幼稚園児が日常的に散歩に訪れ、利用者を楽しませている。	町内会に加入し、定例会には代表や管理者が出席し、地区清掃活動には職員が参加している。事業所主催の秋祭り、炊き出し訓練には、大勢の地域住民の参加がある。ボランティアや幼稚園児との交流も継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	統括管理者が地域の研修会で発表したり、講演を行うほか、統括管理者、管理者は認知症で悩んでいる家庭に赴き、相談に乗っている。市の見守り支援員の研修を受け入れ、認知症高齢者の理解を深めている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、区長、家族、市、市社会福祉協議会職員の皆さんが参加し、助言を得たり、参加メンバーの思いも聞いている。その時々で必要な協議議題を掲げ、話し合うこともある。	年6回の開催のうち3回は母体法人運営の3事業所合同で行われることもあって、他の事業所の現状を知り、取り組みに活かしている。利用者の日常生活の報告が主体となり、事業所の直面する課題等の議論が少ない。	事業所の運営課題などを議題に取り上げ、幅広い出席者の立場からの助言がサービス向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のほか、必要に応じて市役所や社会福祉協議会、地域包括支援センターに出向き、相談をしている。日ごろから協力関係が築けるよう、ボランティア活動の受け入れしている。	市担当者とはいつでも連絡が取れ、相談できる関係にある。傾聴ボランティア活動を受け入れて、利用者との交流にもつながっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者との関わり中で、身体拘束について絶えず職員間で話し合いながら対応している。利用者に不穏な様子が見受けられるときは、職員が寄り添い、家に連れて帰ったりして、気持ちを変えるようにして、行動の抑制は行わない。近隣住民に訪問協力をお願いしている。	管理者は職員の言動が気になったときは、その場で注意し、ケア会で話し合うようにしている。職員は外部研修に参加し、ケア会に持ち帰り全員で共有している。転倒防止のための足元センサーは家族の同意を得て使用し、外出傾向のある利用者には同行支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止についての研修に参加し、ケア会で報告して全員で共有している。管理者は、利用者が不穏なときに職員のストレス負担について話を聞いたり、気持ちの切り替えや対策方法を全員で話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は、機会があれば研修に参加し、研修結果をケア会の中で報告している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時や、内容についての変更の際には、時間をかけて説明して、理解を得ている。疑問があれば、個別に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が家族に電話で連絡を取っている。利用者ともお茶を飲みながら話す機会を設けている。意見箱、第三者委員が対応する苦情窓口を設置し、出された意見は前向きに活かすようにしている。	職員参加の家族会を実施したが意見にはつながっておらず、母体法人運営の3事業所合同で家族会を開催し、家族だけで話し合う場を設けて、運営に反映させる計画をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長、副施設長、統括管理者が頻繁に事業所に顔を出し、職員と直接話す機会を設けている。職員の意見は、業務ですぐ活かすようにしている。統括管理者、管理者のリーダー会を定期的に開催し、運営に反映している。	職員の意見は積極的にケアにも取り入れられており、それまで車いすで移動していた利用者について、介助すれば自力歩行もできるのではとの意見があり、実際に職員の付き添いで車いすなしで移動できるようになった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、常に職員にねぎらいの言葉と感謝の言葉を伝え、褒めている。職員、管理者の意見をよく聞き、常に職員と利用者の立場に立って考えてくれている。個別にできることや、就業時間変更など、要望に応じてくれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員研修受講の声掛けをして、職員の質の向上を求めている。職員の人材育成に取り組んでいる。パート職員にも、職員の一員とし研修の声かけをしている。研修内容はケア会で報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加し、花見、運動会、話し合いは利用者を交えて行っている。管理者は医療連携の会合や他の事業所の運営推進会議に参加し、母体法人運営の3事業所のリーダー会を定期的開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時に本人、家族と面談し、思いを聞き、本人の要望、不安に耳を傾け、本人がサービスを受けたいと思う気持ちになるよう、傾聴を大切にして、その都度必要な柔軟な対応をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャー、管理者、職員は家族、本人と多くの会話をすることで、思いを把握している。家族との連絡を多くとり、話しやす関係づくりを行って、家族からも連絡しやすいようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時に家族、本人が望んでいることを聞き、見極めている。事業所での本人の出来事についての家族への報告を密し、本人と家族の関係づくりを大切にしている。本人が馴染むためのお試し入所を行ない、家族と一緒に泊まることもある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は、家族のように共に暮らす関係づくりをしている。職員は、本人の入所前の暮らし方を大切に、人生の先輩として接している。職員が忙しく動き回っていると利用者が台所の手伝いをしてくたり、味噌汁を作ってくれるときがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者のうれしいこと、少し心配なことがあると家族に連絡し、共に協力し、考えてもらっている。本人の入所前の生活を大切にして、事業所でも家での継続生活ができるように努めている。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人のこれまでの人間関係を大切にし、馴染みの人とお茶を飲みに行ったり、電話での会話を大切にしている。ドライブで地元へ帰り、知り合いの家を訪問することもある。</p>	<p>日々の何気ない会話から利用者の要望を聞き出し、支援している。行きつけの美容院、お気に入りの化粧品の買い物、自宅訪問を支援し、また、手作り作品を社会福祉協議会に展示して、新しい馴染みの場とのつながりもできている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>認知症の他者を受け入れられない利用者がいるときは、職員が間に入り、互いに思いやり、助け合う心を分かち合ってもらっている。職員の見守りや、声掛けで互いに助け合う気持ちができてきている。職員が感謝の言葉をいつも発する姿勢を、大切にしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所した利用者の自宅近くに行ったときは訪問したり、手紙のやり取りをしている。家族との関係を大切し、亡くなった利用者が生前に植えた花が咲いたことを電話連絡したりして、交流を続けている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員同士で、元気があったときの一人ひとりの利用者の生活について常に話し合っている。認知症が影響している生活習慣を考え、利用者が今何を望んでいるか考えながら接している。利用者が以前の話を実現として話しているときは、職員も今の話として受け止めて対応している。</p>	<p>家族からの情報で生活歴の情報を得るなどして、趣味の手編みを続ける等、本人の思いや意向の把握に努めている。パッチワーク歴のある利用者が、声掛け支援で久しぶりで針を持つようになった。一部センター方式を取り入れた記録様式に全員で気付きを記入して、共有している。</p>	
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>今までの生活の仕方などを家族や友人からも聞くことで、生活歴や今回に至った経過を知ることができている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりに寄り添うことで、本人が何を求めているか見極めている。職員が傍に座り、会話を交わすことで本人の思いを把握し、本人が口に出さないでほしいことを見極めている。体調の変化があるときは毎日のリズムを調べ、健康状態を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会でモニタリングを確認して、支援効果を見直している。毎月のケア会では利用者の状況を話し合い、必要のあるときはケアプランを見直している。家族の希望も聞いて、ケアプランに活かしている。	個人のケアプランチェック表に毎日記入し、「その人らしさ」を大切に、ケアプランに活かしている。モニタリングは毎月のケア会で確認し、定期的なケアプランの見直しは3ヶ月毎に行い、本人の状態に変化があれば、その都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝ミーティングを行い、情報共有をしている。利用者一人ひとりの状況を確認しながら、連絡を密にしている。個人記録、連絡ノートは、毎日職員が確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の思いを大切に、本人の状況に応じた支援をしている。家に帰りたいときは一緒に地元に戻り、美容院や買い物にも同行支援をしている。本人の希望に合わせ、行きたい所にも同行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、市社会福祉会議、市担当職員、区長が運営推進会議メンバーとなっており、ボランティアが研修に来て、利用者の話し相手になっている。幼稚園児との交流のほか、訪問理容があったり、消防訓練、文化会館の催しには、利用者也参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医は本人、家族の希望で決め、かかりつけ医にしている認知症専門医やその他の受診には、家族の了解を得ている。かかりつけ医には受診の都度情報提供し、利用者を全員で支えられるよう支援している。	協力医をかかりつけ医としている利用者が多く、定期受診は職員が対応し、専門医受診にも同行することがある。受診結果は記録し、家族には電話で報告している。週1回の訪問看護のほか、歯科の訪問診療がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護があり、利用者の状況をみて、いつも相談に乗ってもらい、必要なときには受診につなげている。電話での助言も得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院時には情報交換を行い、入院中も職員や管理者が見舞いに行っている。電話での情報交換もし、主治医との連絡をとって、病院、家族、事業所で早期の退院ができるよう情報共有をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについては入所時に説明し、家族の同意を得ている。重度化傾向になれば医師、家族、管理者で話し合い、再度意向を確認して、支援している。協力医とは、看取りを前提とした協力体制が整っている。	入所時、事業所の方針を説明し事前確認書をもっている。看取りに関する協力医との協力体制は整っており、これまでの看取り実績は1件だが、内部研修を継続的に実施し、希望があれば、管理者をはじめ全員で看取り介護の支援に取り組む姿勢でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員はそろって応急訓練の勉強をしている。利用者の身体状況の急変や事故発生時にも適切な行動がとれるように、常に、利用者との状況について情報を伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得た消防訓練、自主訓練を行っている。地域との協力体制による災害訓練の炊き出しも行っている。地元の職員が多く、協力体制ができている。薪の準備、非常食の準備、炊き出しも行っている。	年1回の消防署立会の防災訓練のほか、年2回事業所の自主訓練を実施しているが、地域住民の参加協力はほとんどない。非常用備蓄品は米飯、飲料水、オムツ等1週間分があり、消費期限も管理されている。	火災や地震災害時に利用者が問題なく避難できるようにすることを目標に、運営推進会議でも協議して、地域住民の協力が得られる体制づくりを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、トイレに行くときは、「手を洗いに行きましょう」などの声掛けをしている。個人的なことは、居室で話している。	利用者の思いを受け止め、プライドを傷つけない声掛けを心掛け、常にその人らしさを大切にするケアを目指している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の傍に座り会話を交わして、本人の思いを聞いている。本人のしてほしいことを聞き、本人の理解を得てから介助等の支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活のペースに合わせて、食事の時間を変えたり、昼寝も居室が嫌な利用者はホールで横になってもらったりしている。趣味の塗り絵をしたり、洗濯、掃除、生け花など、希望に合わせた生活支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院に予約に行ったり、行きつけの地元の散髪屋に行ったり、お化粧をしたりしている。洋服を職員と決めたりすることで、その人らしいおしゃれを心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日に食べたいものを聞いて、寿司や、すき焼きを準備することもある。クリスマスや敬老会には職員がご馳走を作り、楽しんでいる。2ヶ月毎に外出に出かける利用者もいる。毎日の食事の献立や、準備なども利用者と一緒にしている。	献立は当番制で、利用者にもその日の希望を聞いて決めることもある。水分補給は、経口補水液や清涼飲料水などで行い、誤嚥の心配のある利用者には刻み食とし、マンツーマンで支援している。職員も同じテーブルで食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分摂取量の把握が必要な利用者は毎日摂取量を記録して、健康管理をしている。糖尿病の利用者には、同じメニューで油抜きをしたものなどを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けで食後の口腔ケアをしている。自分で入れ歯を洗えない利用者は職員が洗い、夜間は洗浄剤につけている。歯ブラシを失くす利用者は預かり、食後は見守りで歯磨きしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食事前にはトイレ誘導し、排泄を促している。歩行困難な利用者は居室にポータブルトイレを置いている。なるべくトイレで排泄できるよう、本人の行きたいときに支援できるようにしている。	声掛け支援が必要な利用者は3名で、自立に近い利用者は排泄後の確認をしている。布パンツ、紙パンツは使用するが、オムツ使用の利用者はいない。状況に合わせて、ポータブルトイレを使用している。排泄パターンを把握して、失敗を少なくするよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分補給や牛乳を飲んでもらい、毎日の排便状況を確認している。出にくい利用者には散歩や体操を呼びかけ、食物繊維の食べ物や便秘改善の薬を飲んでもらっている。食事前には、全員が健康飲料水を飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴支援をしている。一人で入る利用者は、本人に気づかれないよう見守りをしている	毎日の入浴にも対応するが、週2、3回入浴の利用者が多い。入浴拒否の利用者には、対応を工夫して入浴につなげている。シャワー浴では湯温、浴室、脱衣場の室温に特に配慮している。自分の好みのシャンプーを使う利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の習慣を大切に、休息を取ってもらっている。疲れたとき、夜寝れないときは、昼寝を勧めている。日中昼寝をして、自分の睡眠リズムを保つ利用者もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服用には注意をして、何度も確認している。薬が変わったときは職員で共有し、副作用についても絶えず確認し合っている。訪問看護や関係の医療従事者に処方箋のコピーを手渡し、情報共有をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を活かして、生け花、塗り絵、掃除、洗濯の手伝いなど、役割を持ってもらっている。小学校、幼稚園の運動会、相撲大会、四季の花見等で楽しみを持ち、気分転換をしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は庭に出て歩いたり、日光浴を習慣づけている。歩行困難な利用者も、車いすで外出している。本人の希望で家に連れて行き、近所の友人と交流をしている。	散歩、外気浴は事業所の庭で日常的にしている、歩行できる利用者が多い。週1回、2、3人でドライブを楽しみ、買い物はマンツーマンで支援している。年間行事の花見、秋祭りには全員が参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いを自分で持ち、スーパー等に職員と一緒にいる。小遣いの一部を貯金箱に入れて孫にプレゼントしたり、お年玉を銀行に引きに行き、孫や親類の子供に渡している利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がかかってきたり、本人の携帯でかけたりけたりしている。家族から頻りに手紙があり、年賀状を家族に出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓を作り、日差しが入るようにしている。壁には利用者の手芸品や、行事の写真を展示して和やかな空間をつくり、四季折々の壁飾りを飾っている。各居室も本人の好みや、状態に合ったをしている。	玄関、ホール壁面に飾られた写真、花、手作り作品からは季節を感じ、ホールの大きなソファでは利用者が足の運動をするなど、くつろぎの場となっている。転倒予防のため、足元の安全にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にはいすを置いて一人でくつろいだり、少人数でおしゃべりをする場になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の好みに合ったつくりとし、本人が安心して過ごせる環境をつくっている。	各居室には収納スペース、洗面台、トイレが備え付けられ、ドアには折り紙の雛飾りを飾っている。本人の好きなものを置いたり、家族の写真を飾ったりと、利用者の趣味が窺える、その人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には好みの写真やカレンダーを貼ったり、転倒防止の手すりや立ち上がり棒設置し、各自が安全に生活できるように工夫をしている。安全に生活できるようにセンサー、歩行器、車いすを利用している。		

ユニット名:

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない